

令和元年度 教育センター運営委員会 (議事録)

- 1 日時 令和元年10月24日 13時30分～15時00分
 2 場所 教育センター 会議室
 3 出席者 運営委員会委員12名 外職員

発言者	内 容 等
委員	ICT環境整備について、本年度は小学校・高等学校の普通教室、来年度は中学校・特別支援学校に整備となっているが、特別教室に整備される予定はないのか。
事務局	ICT環境整備は教育政策課の担当だが、普通教室に1セットの整備と聞いている。
委員	中学校、特別支援に関わる先生から、理科室等で動画を見せたりすることが効果的だとの声を聴いている。特別支援学級、通級指導教室でWi-Fiが整備されると様々なコンテンツの利用が可能になるとのことで、普通教室だけではなく、拡大した環境整備を、教育センターが主管ではないけれども、予算を確保し、どの教室でも利用ができるようになるように努力してもらいたい。
事務局	先行導入した学校を訪問し、実際に見聞きする中で、同様の意見が出ていることは承知している。国の考え方にもステップアップしていくとあり、現在の普通教室への整備は最低限のレベルで、今後グループに1個、1人に1個とステップアップする案も出ているので、今後内部で情報共有し話をしていきたいと考える。
委員	デジタル教材に関するものについて、プロジェクタータイプの上から投影されるものを学校に導入するのか、電子黒板のテレビ型のものなのか。
事務局	廊下に無線LAN、黒板の上方にプロジェクターを設置し、ロールタイプの移動式スクリーンとタブレットというのが1セットで整備される。移動式スクリーンを貼って黒板の半分に動画を示し、残りに板書するような形にしている。
委員	強い日光が当たると画像が見づらいとか、音もパソコンからだとか聞きづらいとか聞くが、教室にスピーカーがあるのか。
事務局	音に関しては、プロジェクターから大きな音が出るようになっている。画面の明るさは3,500ルーメン以上なので、問題ないと考える。実際に導入済の小学校3校を見学したが、明るさについて不自由なく使っていた。
委員	カーテンを閉めて生徒の手元を暗くしなくても大丈夫ということか。
事務局	厳密にいうと日差しが強い時にはカーテンを閉めた方が見やすい。ある程度までは電気を消せば見える。写真はスクリーンを使わず黒板に写すだけでも認識できる。
委員	あまり使用されていないともったいないので、機材を無駄にしないように、各学校で確実に活用できるようにすることが大切。どうやったら一番効果的なのかは、すぐに人に聞ける、センターに行って聞かなくても、ICTをよく使っている学校や同僚から教えてもらえる環境を作る必要がある。

発言者	内 容 等
事務局	<p>機材関係はリースで、5年後に更新していく方法になっている。先生方が使いこなしていくために、各校の情報推進の先生を対象とした研修を実施予定。「スクールFネット」というイントラネット上に教材動画の作成方法や、それらの活用方法についての研修動画を配信するなど、実際に使ってもらえることが一番大切だと認識して進めている。また、教育センターには実際にタブレットなどを使った校内研修ができる環境の研修室があるので、その点もPRし、使用してもらえるようにしていきたい。</p>
事務局	<p>ICT環境については、11月に各学校から情報教育担当者を集めて基本的な操作方法や活用方法等の研修を実施予定。また、オンライン研修でも基本的な操作方法等の研修を実施予定。今後は、指導主事が各学校を訪問して校内研修をサポートする体制も整えていく。</p>
委 員	<p>福岡TSUNAGARUクラウドは職員室のパソコンで見ることができるのか。</p>
事務局	<p>職員室の教員用パソコンは校務系のネットワークであり、TSUNAGARUクラウドは、教育系ネットワークに分類される。校務系では個人情報を取り扱うため、インターネットと接続しない独自のネットワークとしており、成績等の校務処理のほかにはオンライン研修システムが対応できるようにしている。TSUNAGARUクラウドでは、クラウド上にデータがある状態のため、扱うデータは機密上問題のない教材動画などに限られることになる。環境が整備されていけば各教室のタブレットを利用して動画教材などを見ることができるようになる。</p>
委 員	<p>セキュリティーの面もあるかもしれないが、先生たちの机の上で見られるということが大きなことで、教育政策課と連携して対応して欲しい。教材研究など机で行うため、教育系の教室など別のところに移動して行うことなく、先生たちの机から見ることができるようにはならないと、仕事の中で使えないと思う。先生たちの机の上で見られるように進めて欲しい。</p>
事務局	<p>クラウドの中のものも覗かれる可能性があることを想定して、職員室のパソコンは、児童生徒の成績処理などで使用するものと、切り分けている。重要な点は、一緒にして、情報流出など大変大きな問題がおこらないようにすることである。ICT環境の整備が進むと、タブレット端末を職員室に持ち込み、教材動画作成や教材研究が十分可能になることを、ご理解いただきたい。</p>
事務局	<p>職員室にもアクセスポイントを付与予定、教育系の端末が学級数導入予定のため、職員室で教材研究などの業務をすることは可能である。 また、校務系のパソコンからは仮想ブラウザ上で、TSUNAGARUクラウドを閲覧することは可能となる。データのダウンロードはできないが、前述の教育系パソコンではできる。</p>
委 員	<p>その点をPRしてもらったらいと思う</p>
事務局	<p>特別教室についても、アクセスポイントがすでに付与されているため、特別教室にパソコンを持っていけば閲覧は可能である。学校への周知が徹底されていないようなので、アピールしていきたい。</p>
委 員	<p>事業の統廃合の予定等があれば教えてほしい。</p>

発言者	内 容 等
事務局	<p>今後、事業の統廃合については、例えば「体験活動系からなるいくつかの事業を一つの体系としてまとめることで、無駄な部分を省いていく」というような視点から検討するというのが、基本的な考え方である。</p>
委員	<p>福岡市の喫緊の教育課題のうち、人権にかかわる現象は、年々増加傾向にある。例えば障がい者や被差別部落、外国人に対する差別用語を使って、相手を攻撃したり自己を卑下したりする事象が、昨年度は90件あり、今年度はすでに50件を超えている。第2次教育振興計画の中にも人権感覚の育成と道徳性の育成といったことが書かれている。しかし教育センターの講座にはそれに焦点を当てた講座がない。この点は指導部の業務になるかもしれないが、背景や原因、課題について、問題提起や方向性が示されておらず、研修講座に反映されていないと考える。長期研修員やグループ研修員の研究でもそれが無いように見受けられる。いじめの問題にもかかわるため、ぜひ、研修講座をきちんとし、各学校に広げてほしい。</p> <p>もう1点、A事業について、各学校で持ち回りの道徳教育をテーマにした学校が今年度6校、センターのホームページでは101個の授業が行われていたようだが、福岡市の人権読本「ぬくもり」を使用していたものが1校と少なかった。全児童に配布されており、こういった場面で積極的に活用するよう、センターで指導助言して、公開授業をしていただくと、各校に広まっていくと思うので、そういったこともお願いしたい。</p>
事務局	<p>同様に人権に関する研修については、本当に重要であると考えている。今年度より経験年数研修において、人権にかかわる内容を、昨年の1回を2回に増やしている。ただし、原因分析といった踏み込んだ内容には到達していない状況のため、今回の意見を参考に検討し、充実を図っていきたいと考える。「ぬくもり」の使用については、活用した授業実践研修を行っているが、さらに充実させていきたい。</p>
事務局	<p>現在、長期研修員には人権をテーマに頑張っている。年度当初に主事と具体的な事象に向き合うような研修ができないか検討したが、2年目で継続的な研究を行っていることもあり導入は見送ったが、今後の課題として共有していきたい。</p> <p>「ぬくもり」の活用については、指導部と連携して各校に指導助言していく。</p>
委員	<p>神戸市の教師間のいじめの事案は、いじめ対策の担当の先生たちには、自分たちは人権意識があると思っていたはずだが、自らの行動を遊びの延長と捉えていたという行動とのギャップに気付いていなかった。そのことを考えると、研修の在り方を見直していく必要がある。</p> <p>初任者研修について、対象者が増えているため、負担が課題になっている。必要な研修ではあるが、初年度の負担は大変大きく、本格的な見直しに取り組んでほしい。中学校では担任、教科担当、初任者研修、行事担当。部活指導は、経験のないスポーツを担当していたりする。1年目は部活担当から除外するなどの対策を取り、余裕のある状態で研修が行われるようにしていただきたい。今の小中学校の教員はやる事が多く、特に初任者は多い。教員が足りない中、有能な先生が精神的に病んで退職することがないように負担を減らし、研修に集中できたりベテランの先生から話を聞いたりできる時間が確保できるようにしていただきたい。</p>
事務局	<p>頂いた意見を色んな場面で発信していきたい。</p>
委員	<p>指導に課題がある先生の支援について、本人の資質に起因するものなのか、指導能力、資質能力に起因するののか所属校の指導体制が不十分なのか、職員室での人間関係に起因するののか。指導に問題があると一括りにすると、授業なのかコミュニケーション、保護者との付き合いに課題があるんだらうなとネガティブにとらえられるきらいがある。本人の資質、キャラクターに起因しない原因によって発生する課題に対しては、指導に行かれている研修指導員の先生方の声をピックアップして、指導主事の指導に活かしてほしい。</p>

発言者	内 容 等
事務局	<p>研修指導員は若手教員を担当するだけでなく、校長から聴き取りを行ったり、多方面からの指導支援を心がけているところである。巡回研修指導員については、今年度増員し、手厚く支援できるようにしている。いろんな要因が絡んでいるので、しっかり分析し多様なバックアップ体制を考えていきたい。</p>
委員	<p>定型書類の様式の見直しですが、第2次計画でも子どもと向き合う時間確保で提出書類の削減のパーセンテージが示してあったが、センターとしてはそういう取り組みをしているのか。</p> <p>また、A事業について、現在の持ち回り制となる前に、小中ブロック単位で行われていたが、見直しにA事業の在り方が含まれているのか教えていただきたい。</p>
委員	<p>文書の様式の見直しについては、量に関しては減らせるものや、提出方法に関する手順の簡素化などは、指導部等と情報共有しながら取り組んでいきたい。</p> <p>次にA事業については、振興計画の柱にも小中連携教育があるように、非常に大事だと考えている。B事業ではブロックで小中連携教育に関することを取り上げてもらっている。今後検討していきたい。</p>
委員	<p>小中連携は大事だと考えている。</p>
事務局	<p>小中連携は大事である。</p>
委員	<p>OECDの2018年の報告書では、48か国中日本の小中学校の仕事時間は最長で、職能のスキルアップの時間は一番少ないとなっている。ほとんどの教員が勉強したいと思っているが、時間が合わないとか、他の仕事のため時間が取れない状況が数字に表れている。さらにスキルができないために授業実践していく中で、子どもに対して工夫・発問の数値が他国より自信がないということになっている。</p> <p>2013年度よりも仕事時間がさらに長くなっている。働き方改革の推進、研修の工夫、それらにかかる時間が取れない限り難しいと思う。センターだけではできないだろうが、連携して進めていただきたい。</p>
委員	<p>研究発表会について、完成原稿を読み上げる形であったが、今年度は変わると聞いたので、とても楽しみにしている。</p> <p>働き方改革について、会議があり、指導主事たちの働き方改革、どの県も早く現場に戻りたいと疲弊しているということが共有された。ぜひ、先生の働き方改革、センターの指導主事の働き方改革を来年もぜひ進めていただき、昨年より改善されたとの報告を期待している。</p>
委員	<p>先生方の時間がないというのは、メディアにも取り上げられ、色んな意味で広く知られてきた印象をうけるが、研修の話になると次々に増えていく印象がある。何かを始める時に何かを減らす形をとらないと、学習指導要領にプログラミングや外国語が追加されるなど、先生たちが潰れてしまうと思う。研修の在り方も根本的に考えた方がいいと思う。研修を提供する側がリストアップして決まった中から受ける側が1つずつこなしていく方法が主流だったので、受ける側が自分を高めるために研修計画を作り受講するような在り方を検討してほしい。</p>
委員	<p>学校で来年度の授業時間に関する提案があった。</p> <p>3学期から試行する方向ということである。</p>

発言者	内 容 等
委員	<p>現在、センターで全小学校にアンケートを取っていて、教育課程などで来年度に向けてパターンをいくつか示していくようだ。自発的に取り入れる方向であれば、うまくいくのではないかと期待したい。</p> <p>7月の働き方に関する研修を受けた先生が早速職員の帰る時間を明示したボードを作り、見える化し、とても効果的だったと聞いている。若い先生方だけの責任にせず、全体として改革していけたらいいと考え、そういう研修の在り方もこれから大事になってくると思う。</p>
委員	<p>P T Aの任意加入問題については、不適切な表現の通知があったことを踏まえ、今年度の教務主任研修に講義を新設し、きめ細やかな対応と表現について注意喚起し、学校への浸透が図れたと思う。今後も学校・教育を取り巻く社会情勢に感度を高め、それを反映させた研修講座編成に尽力いただきたい。</p> <p>教育専用クラウドについて、動画の作成・配信だけでなく、その利用効果や課題、改善点などを丁寧に把握・検証し、教員・児童生徒ともに知識等向上し、定着するよう期待している。</p>
事務局	<p>みなさま、貴重な意見をいただき、感謝している。センターに着任して半年以上たった今、これまでのセンターの事業や業務について振り返り、見直しを図っているところである。同時に、教育委員会事務局内の各課との連携についても、月に1度会議を開き話し合いをしている。</p> <p>学校現場における一番大きな課題は、人材不足と受け止めている。この人材不足の状況でできることは、人材育成が何より大切と考える。先生方のための学校や各施設での研修はもちろんだが、教師になりたいと志望してくれる方を増やしていくために、大学の先生方との連携を今以上に図っていかなければと考えている。</p> <p>センターが工事が終わった時に、新生教育センターとして、来年度に向けての取組をご説明できるようにしたいと思っている。今後ともどうぞよろしくお願いしたい。</p>